

馬蹄腎に発生した腎盂尿路上皮癌 症例報告と本邦報告例の臨床的検討

水沢弘哉[†] 清水孝明 手塚雅登
三村裕次 塚田学* 加藤晴朗**

IRYO Vol. 74 No. 11/12 (481-484) 2020

要旨

72歳男性。主訴は肉眼的血尿と右側腹部痛。造影CT検査で馬蹄腎と右腎下極に相当する部位に長径6 cmの内部不均一な腫瘤性病変が認められた。尿細胞診検査は陽性で、馬蹄腎に発生した腎盂癌と診断し馬蹄腎峡部離断術、右半腎尿管全摘除術を施行した。病理診断は尿路上皮癌、G3>G2, pT4, リンパ節陽性であった。術後にGemcitabine (ゲムシタビン) と Cisplatin (シスプラチン) による化学療法を行ったが肺転移を認め術後19カ月で死亡した。本邦で報告された馬蹄腎に発生した腎盂癌26例を集計して正常腎に発生した腎盂癌と臨床的に比較した。馬蹄腎では左腎優位に発生する傾向がみられたが、左右比以外の相違は認められなかった。馬蹄腎では水腎症や腎結石の発症も左側が多いとされている。馬蹄腎の癒合は右癒合と比較して左癒合が多いことが関連している可能性がある。馬蹄腎に発生する腎盂癌も正常腎と同様に浸潤性癌の報告が多かった。長期観察の報告例は少なく、長期生存例はわずかであった。

キーワード 馬蹄腎, 腎盂癌, 尿路上皮癌, 左右比

緒言

馬蹄腎は先天的な腎の癒合異常では最も頻度が高いもので400-700人にひとりの割合で発症するとされている¹⁾²⁾。今回われわれは馬蹄腎に発生した腎盂尿路上皮癌を経験した。自験例を報告するとともに、馬蹄腎に発生した腎盂癌の臨床的特徴につき本邦での報告例をもとに検討した。

症例

症例：72歳，男性。

主訴：肉眼的血尿と右側腹部痛。

既往歴：特記事項なし。

現病歴：右側腹部から右下腹部にかけての疼痛と肉眼的血尿のため近医を受診した。尿路結石を疑い精査を行ったが結石は不明のため信州上田医療センター（当院）泌尿器科へ紹介となった。

現症：身長 158 cm, 体重 65 kg, 血圧 160/83 mmHg, 心拍数 64回/分, 体温 36.4 °C。腹部は軽度膨隆, 軟, 圧痛なし。血液検査では白血球 6,400/ μ l, 赤血球 505 \times 10⁴/ μ l, 血小板41.2 \times 10⁴/ μ lと軽度の貧血と血小板増多を認めた。尿検査では肉眼的血尿はみられず, 沈渣で赤血球 30-49/HPF, 白血球 5-9/HPF, 細菌+/-であった。造影CT検査を施行したところ, 馬蹄腎であり, 右腎下極に相当す

国立病院機構信州上田医療センター 泌尿器科 *上田腎臓クリニック 泌尿器外科, **長野市民病院 泌尿器科 †医師
著者連絡先：水沢弘哉 信州上田医療センター 泌尿器科 〒386-8610 長野県上田市緑が丘 1-27-21
e-mail : mizusawa.hiroya.ev@mail.hosp.go.jp
(2020年5月1日受付, 2020年7月10日受理)

Renal Pelvic Urothelial Carcinoma in the Horseshoe Kidney :

A Case Report and Clinical Review of Patients Reported in Japan

Hiroya Mizusawa, Takaaki Shimizu, Masato Tezuka, Yuji Mimura, Manabu Tsukada* and Haruaki Kato**, NHO Shinshu Ueda Medical Center, *Jishyukai Ueda Kidney Clinic, **Nagano Municipal Hospital
(Received May 1, 2020, Accepted Jul. 10, 2020)

Key Words : horseshoe kidney, renal pelvic carcinoma, urothelial carcinoma, left/right ratio